

今回のテーマは、『体育のすばらしさと指導の難しさ』についてです。

他教科にあって、体育にないものって？

小学校の教科の中で、『体育』の運動領域だけが検定教科書がありません。小学校学習指導要領の体育編には、「目標や内容」は記載されていますが、実際の授業での指導法は十分な情報が提供されていません。各領域で「具体的に何をどう教えれば良いのか」「授業までに何を準備すれば良いのか」が明確ではないのです。**Whatがあって、Howがない状態です。ここに、指導の難しさがあります。**

検定教科書がある

国語 算数
社会 理科 音楽
図工 生活 家庭
外国語 道徳

検定教科書がない

体育

(運動領域)

※ 保健領域はあります。

そもそも教科書って何なの？

教科書は、「小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材として位置付けられ、児童生徒が学習を進める上で重要な役割を果たしています。

また、教育の機会均等を実質的に保障し、全国的な教育水準の維持向上を図るため、上記の各学校において、教科書を使用することが義務付けられています。我が国の学校教育においては、各学校が編成する教育課程の基準として文部科学省が学習指導要領を定めており、教科書は、この学習指導要領に示された教科・科目等に応じて作成されています。

各学校においては、教科書を中心に、教員の創意工夫により適切な教材を用意しながら学習指導が進められています。

文部科学省ホームページ 「教科書Q&A」より

他教科にない、体育のすばらしさって？

① 勝ち負けを扱う

単なる勝敗だけでなく、フェアプレイ精神、相手への尊重、チームワーク、自己成長といった多面的な価値を学ぶ機会です。『勝ち負けより大切なこと』を経験することが重要視されます。

- ・ 競争は目標達成への集中力を高め、爽快感や達成感をもたらします。
- ・ チーム競技では、勝利のためにコミュニケーションや連携が不可欠で、集団としての力を学びます。
- ・ ルールを守り、相手を尊重する姿勢は、スポーツ文化の重要な側面です。

② できる・できないを扱う

「できない」ことを肯定し、小さな成功体験を積み重ねて「楽しめる」こと、そして「できる・できない」でなく「する」こと自体に価値を見出す視点が重要で、適切な目標設定とリラックスできる環境作りが鍵となります。

③ ルール・規範意識を教える（行動まで求める）

体育の授業においてルールや規範意識を教えるためには、子どもたちが自ら関わり合い、話し合い、納得しながらきまりを作ったり、守ったりする経験を重ねることが重要です。

- ・ 既成のルールをそのまま適用するのではなく、子どもたち自身に「みんなが楽しく参加するにはどうしたらよいか」を考えさせ、独自の「クラスルール」や「ゲームルール」を作らせます。
- ・ 作成したルールを実際のゲームで試行し、問題点があれば話し合いによっていつでも変更できるようにします。このプロセスを通じて、ルールがなぜ必要なのかを実体験として理解させます。